

# 平成23年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成23年2月18日

## I. 概況

1. 売上高総額	1,360億円余
2. 前年同月比	1.4% (店舗数調整後/2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.6%(89.6%) : 非店頭8.2%(10.4%) ( )内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 26店 (平成22年12月対比-1店)
5. 総店舗面積	929,474㎡ (前年同月比:-1.8%)
6. 総従業員数	20,483人 (前年同月比:-0.8%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 -3.5%、7-9月 -2.9%、8-10月 -1.3%、 9-11月 -0.2%、10-12月 0.8%、11-1月 0.4%

[参考] 平成22年1月の売上高増減率は-7.4% (店舗数調整後)

### 【1月売上の特徴】

- (1) 1月の入店状況は前年を若干下回る店舗が多かったが、重衣料等の高額商材が伸びたことや買い回り購買が増えたことで客単価が上がり、売上全体を押し上げる結果となった。
- (2) 初商恒例の福袋は都内各店でも活況であった。具体的には、「中身が見える福袋」「商品を選べる福袋」が人気を集めたほか、レストランでの食事券が入った体験型の「コト福袋」や高級時計を詰めた「高額福袋」など特徴的な企画商材もよく動いた。
- (3) 好調な身のまわり品の中では、特に、防寒需要で伸びたブーツを含む「婦人靴」と重衣料との買い回り効果が見られた「紳士靴」が、都内のほぼ全店で前年をクリアした。
- (4) ビジネスウェア中心に紳士服は4か月連続プラスとなったが、これは「買い替え需要」「気温低下」「節約疲れ」など複数の要因が重なった結果と考えられる。
- (5) 異常乾燥が続いた東京では、様々な販促施策に加え、保湿効果やスキンケアに対する需要の高まりなどもあって化粧品が活発に動き、2か月ぶりの前年比売上増となった。

### 【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)  
①増加した: 8店、②変化なし: 6店、③減少した: 4店、④不明: 3店
- (3) 1月歳時記(初売り、冬的全館セール、成人の日)の売上(同上)  
①増加した: 10店、②変化なし: 7店、③減少した: 0店、④不明: 4店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)  
①増加する: 4店、②変化なし: 11店、③減少する: 3店、④不明: 3店

## 東京地区百貨店 売上高速報 2011年01月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
<b>総 額</b>	<b>136,015,620</b>	<b>100.0</b>	<b>1.4 ( 0.3)</b>
紳士服・洋品	12,809,510	9.4	3.1 ( 2.8)
婦人服・洋品	35,064,224	25.8	-0.6 ( -2.6)
子供服・洋品	2,613,545	1.9	-5.8 ( -5.8)
その他衣料品	3,115,432	2.3	-10.0
<b>衣 料 品</b>	<b>53,602,711</b>	<b>39.4</b>	<b>-0.6 ( -2.0)</b>
身のまわり品	18,641,596	13.7	1.4 ( -0.5)
化粧品	6,091,503	4.5	2.8 ( 0.2)
美術・宝飾・貴金属	5,560,758	4.1	-0.1
その他雑貨	6,961,743	5.1	-1.1 ( -1.3)
<b>雑 貨</b>	<b>18,614,004</b>	<b>13.7</b>	<b>0.4 ( -0.5)</b>
家 具	1,923,686	1.4	-8.1 ( -8.4)
家 電	818,154	0.6	53.2
その他家庭用品	4,918,944	3.6	11.9
<b>家 庭 用 品</b>	<b>7,660,784</b>	<b>5.6</b>	<b>9.1 ( 9.0)</b>
生 鮮 食 品	4,307,341	3.2	-1.1
菓 子	7,608,957	5.6	-0.7
惣 菜	6,273,162	4.6	-0.1
その他食料品	10,268,015	7.5	4.4 ( 4.4)
<b>食 料 品</b>	<b>28,457,475</b>	<b>20.9</b>	<b>1.1 ( 1.1)</b>
食 堂 喫 茶	3,183,305	2.3	-6.7 ( -7.3)
サ ー ビ ス	2,098,598	1.5	5.7 ( 0.7)
<b>そ の 他</b>	<b>3,757,147</b>	<b>2.8</b>	<b>34.8</b>

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。  
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	9,589,407 千円	68.6 ( 68.0)
従 業 員 数	20,483 人	-0.8
店 舗 面 積	929,474 m <sup>2</sup>	-1.8

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

## Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が2か月連続、家庭用品が5か月連続、雑貨が33か月ぶり、食料品が3か月ぶりのプラス。マイナスは衣料品。また、紳士服・洋品が4か月連続、その他家庭用品が7か月連続、その他食料品が2か月連続、化粧品と家電が2か月ぶりのプラスとなった。

### 【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
<b>総額</b>	1.4	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	3.1	0.3	4か月連続プラス
婦人服・洋品	-0.6	-0.1	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-10.0	-0.3	33か月連続マイナス
<b>衣料品</b>	-0.6	-0.2	3か月連続マイナス
<b>身のまわり品</b>	1.4	0.2	2か月連続プラス
化粧品	2.8	0.1	2か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.1	0.0	2か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-1.1	-0.1	32か月連続マイナス*
<b>雑貨</b>	0.4	0.1	33か月ぶりプラス
家具	-8.1	-0.1	3か月連続マイナス
家電	53.2	0.2	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	11.9	0.4	7か月連続プラス
<b>家庭用品</b>	9.1	0.5	5か月連続プラス
生鮮食品	-1.1	0.0	2か月連続マイナス*
菓子	-0.7	0.0	2か月連続マイナス*
惣菜	-0.1	0.0	3か月連続マイナス*
その他食料品	4.4	0.3	2か月連続プラス*
<b>食料品</b>	1.1	0.2	3か月ぶりプラス
食堂喫茶	-6.7	-0.2	3か月連続マイナス
サービス	5.7	0.1	10か月連続プラス
<b>その他</b>	34.8	0.7	10か月連続プラス
<b>商品券</b>	68.6	2.9	18か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで  
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>